

|               |                             |    |       |
|---------------|-----------------------------|----|-------|
| 研究分野          | 病理                          | 部名 | 研究開発部 |
| 研究課題名         | 魚類防疫体制整備事業（養殖水産動物保健対策推進事業）  |    |       |
| 予算区分          | 内水面研究費（国1/2）                |    |       |
| 試験研究実施年度・研究期間 | S.56～                       |    |       |
| 担当            | 尾坂 康・田村 直明・沢目 司・松田 忍・上原子 次男 |    |       |
| 協力・分担関係       | なし                          |    |       |

### 〈目的〉

県内の養殖業等における防疫技術の啓発普及及び魚病対策の指導によって魚病被害の軽減を図るとともに、水産用医薬品の適正使用について指導する。

### （結果の概要）

#### 1. 魚類防疫体制推進事業

##### （1）防疫対策会議

防疫対策を具体的に推進する上で必要な事項について調査・検討する全国魚類防疫推進会議（表1）、隣接する複数の道県等で構成し、魚病情報の交換、有効な予防対策及び防疫処置の実施について検討する地域合同検討会（表2）、県内の内水面養殖業者を主体とした関係者を対象に事業内容並びに防疫対策について検討する県内防疫会議（表3）を開催した。

表1. 全国魚類防疫推進会議

| 開催時期          | 開催場所 | 主な構成員   | 主な議題  |
|---------------|------|---|---|
| 11月7日<br>第38回 | 東京   | 都道府県、農林水産省消費・安全局・水産庁、独立行政法人水産総合研究センター・さけます資源管理センター・沖縄総合事務所・日本水産資源保護協会<br>(102名) | 1. コイヘルペスウイルス（KHV）病とその対応について<br>2. 国の養殖衛生対策関連事業に関して<br>3. 魚類防疫対策に関して、魚病対策関連研究に関して<br>4. 平成15年度養殖衛生対策センター事業について                          |
| 3月18日<br>第39回 | 東京   | 同上<br>(143名)  | 1. コイヘルペスウイルス（KHV）病について<br>2. 国の魚病対策関連事業について<br>3. 独立行政法人水産総合研究センターの魚病関連研究について<br>4. 養殖衛生対策センター事業について<br>5. 魚類防疫対策について<br>6. 水産用医薬品について |

表2. 地域合同検討会

| 開催時期           | 開催場所 | 主な構成員   | 主な議題   |
|----------------|------|---|--|
| 10月16日<br>,17日 | 秋田市  | 道、東北6県、新潟県内水面水産試験研究機関職員、東京大学、農林水産省消費・安全局、独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所<br>(18名) | 1. 講演『ヒラメのネオヘテロボツリウム症について』<br>(東京大学大学院 良永知義助教授)<br>2. 各道県における魚病発生状況<br>3. 魚病研究及び症例報告<br>4. ブロック内における魚病問題について |

表3. 県内防疫対策会議

| 開催時期  | 開催場所         | 主な構成員   | 主な議題  |
|-------|--------------|---|---|
| 7月24日 | 十和田市<br>南公民館 | 水産振興課、青森・鱈ヶ沢水産業改良普及所長、八戸・むつ水産事務所普及課長、栽培漁業振興協会、内水面漁連会長、養鱒協会会長、内水面研究所職員<br>(14名)        | 1. 平成14年度魚病発生状況について<br>2. 平成14年度魚類防疫体制整備事業結果について<br>3. 平成15年度養殖衛生管理体制整備事業計画について<br>4. 水産用医薬品の使用について |
| 8月29日 | 県庁東棟<br>5階   | 県内水面養殖業者、海面養殖業者、県内水面漁協職員、市町村養殖場担当者、市町村担当者、水産振興課、青森・鱈ヶ沢水産業改良普及所、八戸・むつ水産事務所、内水面研究所(44名) | 1. 平成14年度魚病発生状況について<br>2. 平成14年度魚類防疫体制整備事業結果について<br>3. 平成15年度養殖衛生管理体制整備事業計画について<br>4. 水産用医薬品の使用について |

(2) 養殖防疫管理指導

魚病の発生・伝播の防止、魚病被害の軽減を図るため及び養殖生産物の食品としての安全性を確保するために、医薬品適正使用指導、医薬品適正使用実態調査、ワクチン使用の指導を行った。

(3) 魚類防疫技術対策

魚類防疫技術対策として、魚病診断技術対策、水産動物防疫講習会を行った。(表4)

表4 水産動物講習会

| 開催時期 | 開催場所 | 参加人数(所属)   | 内 容  |
|------|------|--|--|
| 3月5日 | 十和田市 | 独立行政法人さけます資源管理センター、県南環境保全センター、内水面養殖業者、内水面漁協職員、市町村職員、養鯉業者、釣り掘り業者(51名) | 1. 講演①さけます類の魚病防疫対策について<br>講演②へい死魚から見た死因推定<br>2. 最近の魚病の発生状況(KHV等)について<br>3. 内水面研究所の事業紹介 |

2. 特定疾病病対策事業

魚病の発生・伝播の防止、魚病被害の軽減を図るため、養殖生産地において基礎的な防疫対策として特定疾病等監視対策、緊急魚病発生対策を行った。

2003年11月2日青森県弘前市のコイ養殖業者から魚病発生の通報があり、検体を採取し独立行政法人養殖研究所で検査したところKHV陽性と診断された。このため、養殖場内のコイの出荷、移動を自粛するとともに、養殖場からの排水の殺菌消毒指導を行った。また、同業者から十和田市内の個人が10月に購入したニシキゴイから同個人の池で感染発症したほか、同個人がニシキゴイを放流した下田町山崎堤でマゴイに感染が確認された。個人の池で飼育していたニシキゴイを焼却処分するとともに池の消毒を実施した。山崎堤については12月23日に堤内のコイ16個体全数を採捕し処分した。今後、弘前市及び下田町周辺の水系においては、天然に生息しているコイがKHVに感染している可能性があることから、両水系のコイを採捕して検査を行うこととしている。

3. アユ冷水病緊急対策事業

県内河川に放流用として搬入されたアユ種苗について、冷水病の保菌状況検査を行った。その結果、県内2河川60検体で培養法により検査した結果、全て陰性であった。